

営農支援課、白岡地区担当TACの^{いたば}板羽です。

白岡地区の取り組みと致しましては、2年前より「水稻用肥料・農薬の取り扱い説明会」を、各地区で行っております。同日は、JA職員・各メーカーが同席をし、「高温障害対策資材」や「水田の雑草防除」等について、情報提供・意見交換を行い次年度の水稲栽培の参考にしていただいています。

高温障害対策資材では、通常ケイカル等を10a当たり100kg～200kgの施肥量で、稲刈り後～春基肥を施用する前までに散布し耕す指導をしていますが、現在は品質・食味・収量の向上、乳白米・倒伏軽減の特徴を持つ「農力アップ」規格20kgを、お勧めしています。省力型で10a当たり60kgの施用で、健康な稲づくりをサポートする効果があります。

また、水稻での追肥(穂肥)は、高温障害による肥料切れを防ぎ、収量の向上に繋がる効果がありますが、食味を低下させる原因にもなります。そこで、提案をしているのが、追肥の使い分けです。①出荷用の主食米や飼料用米の追肥には、暑い時期に田んぼに入らなくても作業ができる「NK化成C6号」、水口流し込み施用で簡単・省力追肥が可能です。②品質・食味・収量の向上に繋がりたい自家消費・直売向けの主食米追肥には「水稻追肥専用230」を、お勧めします。品質・食味の向上に欠かせない苦土(Mg)が5%入っていますので、うまい米づくりに最適な追肥になります。

このような情報を水稻説明会の他、TAC訪問時や白岡営農経済センター窓口で提案・資料提供を行い活動しています。

